



〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL / FAX 024-567-5322

Web <http://www.nposhalom.net>
Email info@nposhalom.net

発行責任者：大竹静子

ひまわりプロジェクト 2023 が本格始動

今年の「ひまわりプロジェクト」が栽培協力者募集とともに始まっています。すでに申込みいただいた方には三月から種の発送が開始されます。今年から、昨年までの栽培協力者様でメールアドレスが確認できる方々には募集開始の案内をメールによる一括送信で行っています。また、シャロームのホームページ、機関紙「シャロームネットワーク」の前号でも案内を行ってあります。すでに多くの方々から申込みをいただいています。ことに、お礼を申し上げると同時に、まだ検討中という方におかれましては、お早めの連絡をお願いいたします。

今年、数年発行を見合わせてきました「ひまわり通信」を復活させたいと準備しています。栽培技術面の話題を中心に、ひまわりの花を元気に大きく育て種を収穫するまでの参考となるものにしたいと考えています。

ひまわりを育てるためには、まずその育つ環境の基本となる土作りから始まります。また、庭かプランターかで土作りも異なります。大人の身長を超える程になるひまわりを育てるためには、栄養豊富な一定の広さの土地が必要です。プランターでの栽培では、根を十分に張れる大きさと深さが重要です。浅く小さなプランターでは、根が伸びられず一輪挿し用の小さなひまわりになってしまいます。同じ種を使いながら育てる環境で大きく違ってしまう。

ひまわりプロジェクトに長年参加され、多くの苦勞を克服しながら今年に繋がっている方々がたくさんいらっしゃいます。栽培の苦勞話とその対策、成功事例をみなさんと共有しながら、紙面を作っていくしたいと思います。

土作りから種まき、雑草・害虫対策、長雨時のカビ対策、収穫間際の鳥害対策……。一年間の自然との知恵くらべです。ひまわりを育てることを通じて自然との共生を学び、自然の驚異から人間同士が助け合うことの大切さを学ばされます。

「ひまわり通信」が、ひまわり栽培のための知恵袋として現場の知恵がたくさん詰まったものとなっていくことを目指しています。今年一年間の成果を「ひまわり感謝祭」で語り合えることを夢見て今年

栽培の知恵袋として
「ひまわり通信」も再開

地元の講座
オンライン
配信

も「ひまわりプロジェクト」を進めていきたいと思えます。
(T・O)

YouTube チャンネル名
【公式】NPO 法人
シャロームチャンネル

QR コードからも動画をご覧いただけます。チャンネル登録と動画更新通知を ON にすると、最新のアップロード動画が見やすくなります。



URL
www.youtube.com/channel/UCNqEo3kUXXGnUH036YJwJNg

コロナ禍でリアル開催が難しくなった三年前から、教養講座「地元学を考える」のネット配信を続けています。三月開催第二十七回の講座は、「やさしくの基本」でした。JAふくしま未来で當農指導員を長年勤められてきた野菜づくりのプロから、植物の一生をわかりやすく解説していただきました。動画の編集が終わり次第ネット配信予定です。ひまわりの栽培にも大変参考になる内容となっています。是非ご覧ください。

政府は、三月十三日よりマスクの着用を個人の判断とするように緩和した。新型コロナの感染防止対策として求められてきたマスクの着用、アベノマスクの無料配布から始まり三年間続いてきた。そして、今やマスクは日常生活に欠かせないファッションとして定着化しているようである。今回の緩和方針の発表は、実質的なコロナ禍の終息宣言とも受け取れる。

コロナ禍とはなんだったのか。病気の問題だったのか、政治の問題だったのか。コロナウイルスがもたらす感染症、通常の風邪もウイルスによるものと考えられるが、つい最近までこれを確認するすべがなかった。電子顕微鏡の進歩、遺伝子解析等の進歩がウイルスの正体を明らかにしてくれた。

この科学の進歩は、病原菌に感染する前に予防するための方法として、ワクチンの開発を可能としたが、反面では細菌兵器の開発も可能にした。大國間の対立が激化する中で、細菌兵器への不安と恐怖が、世界中にコロナウイルスへの過剰反応を引き起こしたとすれば、それは政治の問題であったともいえる。

渦中にあつて、真実を見極めることの難しさを改めて教えられる。
(T・O)

添えのメモ帳



◆ひまわりの種蒔き

只今シャロームでは、障がいのある方、職員、ボランティアで種の発送準備を行っております。じきにひまわりの種が届くと思いますので、宜しくお願い致します。

◆昨年を振り返って

令和四年度の全国の栽培協力者様の栽培後の感想や写真などを一部ではありますが、お伝えしたいと思います。

●札幌市 M・K 様「六粒の内三粒発芽し、その内二粒が小さくて種が余り取れま

せんでした。今度こそは大輪を！」

●青森市 K・M 様「生活クラブ、サステイナブルフェス二〇二二の取り組みに参加した者です。今年は雨が多く中で種が腐ってるのではないかと、カワラヒワが種をついばみに来て慌ててネットをかぶせたりしました。食用ひまわりは初めてで、茎も太く何より葉の大きさにびっくりしました。」

●山形県 Y・S 様「今年も雑草と苦戦しながら栽培しました。八月三〜四日の大雨で、どうなる事かと思いましたが、どうにか収穫できました。収穫時、晴れの日は続かず苦戦しました。」

●栃木県 Y・H 様「コガネムシにもぐりこまれ、タヒ

バリについてばまれ、やっとこれだけは確保できました。おいしいひまわり油になりますように。」

●東京都品川区 K・Y 様「ひまわりを育てるのは初めてでしたが、日に向かって咲くひまわりに元気を頂きました。コロナ禍で外出もままならなかったため、ひまわりの成長は嬉しかったです。」

●生活クラブ神奈川みんなの農園様「太くて少し背の低いひまわり、細身の背の高いひまわり、楽しく育てさせて頂きました。」

●千葉県ワーカーズ、コレクティブ紙風船様「利用者さんが育てて種を回収しました。また来年もかわいいひまわりを育てたいと思っています。」

●埼玉県立須崎総合高等学校「初めて育て、葉に小さな虫が付き、そのままにしていたらだんだん枯れ始めてしまいました。種になってからネットをかけたのですが間から食べられ四苦八苦。楽しく過ごせました。」

●長野県 F・K 様「今年も天候が安定せず、夏だということに雨が続く変な気候でした。それでも八月のお盆を過ぎたころにはひまわりも満開になり、今年も行けるぞと思った矢先、雀の大群にみまわられてあつという間に種を食べられてしまいました。それでもまあまあのお出来です。」

●金沢湯涌農園様「天候不順が続きましたが、美しいひまわりが咲いてくれました。仲間と共に喜び合いました。」

●高知県立須崎総合高等学校

A・F 様「初めてということもあり、ひまわりの種が思う程収穫できませんでした。来年は今年の反省を活かし、たくさんのお花を咲かせたいと思います。」

●京都市 Y・S 様「左京区の老健施設の屋上で十本のひまわりが、コロナで外出も出来ず直接家族と会えない利用者さんを元気づけてくれました。」

昨年のお手紙を拝見させていただくと、発芽不良や天候不順の影響、鳥の被害が多く報告されてきました。これらを皆さんと共有し、今年の栽培に活かしていきたいでしょう。次回のひまわり通信では、九州地方の協力者様からのお便りを中心にお伝えできればと

思います。
また、三月八日、十一日の小田原三の丸ホールでのイベントにて、生活クラブの皆さまにひまわり油やせんべいを販売していただきました。心より感謝申し上げます。
(ひまわりPJ 後藤)



▲川崎市立東小倉小学校様、心のコもった寄せ書きを送っていただきました。



▲新座市立新開小学校様より、ひまわり学級のひまわりの様子

収穫体験を通じて農産物を学ぶ機会に
おひさま畑 野菜&ひまわり収穫体験
9月15日

おひさまクラブは、農産物の生産を通じて、子どもたちに食の大切さや野菜の理解を深め、安曇野市ひろ公園西側のおひさま畑で、夏野菜の収穫体験を開き、松川小学校5年生3クラスと1年組が参加しました。児童らは同クラブ会員に教わりながら、トマトやピーマン、青じそなどを収穫して、地元農産物と触れ合いました。また、畑の東側では、東日本大震災と原発事故後の福島支援として「ひまわりプロジェクト」が行われており、児童らは被災地福前に送るひまわりの種も収穫しました。同クラブ代表の平林 芳子さん(東部)は「想像以上に積極的に楽しんで取り組んでくれました。農産物を学ぶ良い機会になったと思います」と話していました。

▲たくさん野菜を収穫しました
▲被災地支援のためひまわりを収穫

▲長野県のおひさまクラブ様より、松川小学校(北安曇野郡松川村立)の子どもたちとひまわり種の収穫体験をしていただきました。



▲生活クラブ様が販売してくださった、小田原でのイベントの様子。多くの方にひまわりプロジェクトを知っていただくことができました。

教養講座 地元学を考える

第二百二十四回「地元学を考える」
(二〇二三年十二月十日開催)

「星月夜
ゆめえをそめてみよう」

講師 橋口久子氏

ぼくは橋口先生の絵画教室で皆さんの絵をみたり、話を聞いて福島市への想いがあるんだと思いました。そして皆さんの三原色の使い方が上手でとても綺麗だと思いました。そして皆さんの塗り方にも個性がありました。最初に三原色を塗る人、色を作ってから塗る人、黒くなっているママ……

それぞれの個性が出ていて面白かったです。皆さんの発表を聞いて福島への願いや、思い出などすごく伝わってきました。ぼくが色を塗って思ったのは、三色を混ぜて自分が思ったような色を出すのが難しかったです。ぼくが描いた絵を、知らない人の前で発表するので緊張しました。ママの絵をみて黒かったの、何で黒が出せるのかなと思いました。

絵画教室が楽しかったのでまた行きたいと思いました。橋口絵画教室は僕にとって安心している場所です。

(小学五年 島田 陽広)

……

昨年の夏、息子が不登校になつた時に、学校に行かなくてもどこかに彼の居場所があつたらいい……そんな想いをもっていました。絵を描くのがスキな息子と、橋口先生の所に伺つてから、すっかり橋口先生の絵画教室のファンになりました。

初めて三原色を使って塗り絵をし、他の皆さんの完成した作品を見た時に「なんで私だけこんな風に仕上がったのか」「もう一回やらせて」「恥ずかしい」そんな感覚でした。引け目を感じながら作品への想いを話したところ、否定することなく受け入れてくれました。「自分は変わっているのかな」「他の人はなぜあんな綺麗な色が出せるんだろう」と人と比べている自分がいることに気が付きました。ありのままを受け入れてもらったことで、帰りの車で心が軽くなつたのを今でも覚えています。

今回の地元学は、橋口先生から直接声をかけていただき、親子で参加させていただきました。塗り絵をする前に橋口先生は「みんなちがってみんないい」「間違いないし、途中でもいい」そうおっしゃいました。

今回参加させていただき「作品を描く、想いを口にする」ことで、色をツールに自分の心の

中を表現することができました。自分では意識していない心の奥の部分を出し、それを丸ごと受け止めてもらった、こんな自分でもいいんだ……そう思えた気がします。

大好きな言葉の一つに「みんなちがってみんないい」という言葉があります。

もしかしたら今までの私は「みんな」の中に「わたし」がいなかったのかもしれない。「みんなちがうからたのしい」「わたしはわたしでいい」そう思うことができました。今回息子と一緒に参加させていただいたのも何か彼なりに感じてくれるのではないかと……という想いがありました。

恥ずかしそうにしていたけれど、その日まで面識のない人たちの中で自分の作品を自分の言葉で伝える息子の姿をみて、かっこいいな……と思ったのと、一緒に参加できてよかったと思いました。そして自分の子育てで自信がなかった部分も背中を押してもらえたような気がします。みなさんに感謝いたします！

(島田 久美子)

まちなか夢工房職員の島田さんが息子さんと一緒に感想文を書いてくださいました。ありがとうございました。

「森と生きる」

講師 蓮沼昇氏

今回の地元学は、「森の案内人」として、森を守ること、そしてそれは地球の環境を守り、人間を守ることにつながっていることを伝える案内人をされている蓮沼昇氏の講演でした。

地球温暖化の問題が深刻化している昨今ですが、ニュースで耳にはしていても日常の中で自分事として捉えることはどのくらいあっただろうか、と蓮沼さんのあたたかな語り口の中に、ハッとさせられることがたくさんありました。蓮沼さんは「環境」という言葉を子どもに説明する時に「自分の周りのこと」という言葉を使うと話されていました。「環境」というと難しく感じる事柄が、少し自分に身近に感じられました。

「森林(やま)からのおくりもの」の紙芝居は、わかりやすく環境問題を伝える内容で、子どもだけでなく大人にも自然環境の大切なことを教えてくれるものでした。七割が山で占められている日本は昔から山、森林を大切にして生活してきました。

現在、様々な自然災害が起きていますが、山を守ることが命を守ることであること等、こ

れから私たちが考えていくべき課題についての問題提起がされてきました。

蓮沼さんのお話の根底には「人のために」という考えがありました。常に「相手のことを考える」「自分にできることを考える」という話は心に残りました。南アメリカの先住民に伝わる「ハチドリの一としずく」という話の紹介があり、その中に出てくる「私は私にできることをしているだけ」という精神がまさしく蓮沼さんの原動力であり、それを後世に伝えたいという強い思いを感じました。

この話は、一匹のハチドリが山火事を消すために一滴ずつ水を運び、それを手伝うハチドリが少しずつ増えていく、という内容です。しかし最後にどうなったかは書かれておらず、読んだ人が自分で考える話になっているそうです。この話を聞いた子どもが、「同じように人間も手伝う人が一人一人増えていけば、地球温暖化は防げると思う」という考えを発表したそうです。この答えこそ蓮沼さんが後世に伝えたい思いなのだろうと思えました。

最後に蓮沼さんは夢をもつことの大切さについても話され、ご自分の夢は九十歳、九十五歳になっても今の仕事を続けていること、とおっしゃっていました。微力でも何かできることを続けられる人でありたい、と希望と元氣、笑顔をいただいた講演でした。

(石高 敦子)

<YouTube> 「ひまわりプロジェクト」 関連動画 視聴はこちらから

ひまわり感謝祭で上映した生活クラブ連合会様制作の動画です。



Sustainable CLUB 「ひまわりプロジェクト」
(2022年12月公開)



ひまわりの架け橋 Part II ~活動編~
(2022年5月公開)



ひまわりの架け橋 Part I
(2021年12月公開)



参加者の石高さんに感想文を寄稿していただきました。ありがとうございました。

活動のご報告

2023年1月26日～2023年3月25日

- 2月3日 楽膳「ふくいろキラリ」10周年記念式典参加（福島市）
- 2月9日 福島地域福祉ネットワーク会議参加
- 2月13日 事務局〈ひまわり〉グリーンコープ様来訪
- 2月18日 憩 UFO ふれあい館納品開始（飯野町）
第226回 地元学講座
「紙芝居で知るふくしまの昔話」
講師 島中正一氏
- 2月24-25日 楽膳〈販売〉ふくしまものづくりマーケット（福島市）
- 2月27日 〈ひまわり〉生活クラブ様「サステイナブルフェス2023」用ひまわり種等発送
- 3月10日 憩 共生社会実現協議会 会議参加
- 3月18日 第227回 地元学講座
「やさいづくりの基本 Part2」
講師 石橋利広氏
- 3月22日 夢工房〈体験受入〉ビーンズふくしまサポステ事業所体験

活動予定

2023年3月26日～4月25日

- 4月1日 相談支援 委託相談支援事業開始
事業所名変更「相談支援センター リアン」
- 4月12~18日 楽膳〈販売〉「ソーシャルプロダクツ・アワード2023」展示販売会（東京都）
- 4月22日 第228回 地元学講座
「古くて新しい宗教学」
講師 小林喜成氏



教養講座 地元学を学ぶ 第二百二十八回 予告

「古くて新しい宗教学」

〈講師〉小林 喜成氏
（シャローム初代代表）

〈日時〉2023年4月22日（土）13:30～15:00

〈場所〉まちなか夢工房2階
〈参加費〉500円 〈参加人数〉10名

〈講演内容〉

シャロームの名付け親で初代代表の小林先生によるメッセージです。原始的に人類は、何かの宗教を持っています。（縄文時代の石棒、土器、土偶など）そして世界の三大宗教、太陽信仰などの自然宗教と日本の国家神道。そして現実日本社会を襲う新興宗教など「古くて新しい宗教学」として話し、皆さまからの質問にもお応えしたいと思います。

〈講師プロフィール〉

大正12年 岡山県生まれ
日本キリスト教団神学専門学校（現：東京神学大学）卒業
千葉県勝浦教会、富山県石動教会、福島県信夫教会牧師を歴任
福島県信夫教会には40年間（昭和32年～平成9年）在籍
社会労働運動において活躍し、他にも県史、地方史、信夫教会史など歴史資料の編纂に従事
私立福島愛隣幼稚園 2代目園長

*参加人数把握の為、4月20日（木）までにご連絡いただければ幸いです。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を制限させていただきます。終了後、シャロームホームページよりYouTube配信いたします。

RAKUZEN のデニム風漆器「デニムなうるし」 大切な方への贈り物に

上質なギフトだけを集めたプレミアムカタログギフトに掲載中です。
新生活が始まる春。新しい門出を迎える方へのギフトにいかがでしょうか。

詳細・ご注文はQRコードをチェック

セレクトギフト
▶三越伊勢丹



プレミアム
▶リンベルザ



今年も桜の季節になりました。福島市でも街のあちこちで桜のピンク色が目につくようになりました。花が咲かないうちはそこに木が生えていることも意識していなかったのに、花が咲くと急に視界に入ってくるようになるから不思議です。私の仕事は毎年冬が繁忙期で、冬の間は仕事場に引きこもってひたすらPCの画面を見て過ごします。桜の時期は繁忙期が終わって仕事のスケジュールがゆったりする時期と重なるので、なおさら好きです。近所には信夫山という桜の名所があるので散歩しながら桜を眺めに行きます。桜を眺める人を見るのも好きです。満開の桜の下では誰もが上を向いて嬉しそうにしている、幸せな気分になります。花には人を元気にする力があるんだと実感します。ひまわりプロジェクトが今年も始まりました。今年の夏も全国でたくさんのひまわりが咲いて、みんなを笑顔にしてくれますように。(A・O)